

はじめに

関節リウマチの治療薬の進歩はめざましく、“目標達成に向けた治療 (Treat to Target : T2T)” がめざす寛解達成が可能となってきました。しかしながら、実臨床の現場では、感染症のために治療が継続できない、副作用に対する不安から薬を自己中断してしまうなど、さまざまな理由で薬剤の効果が十分発揮できない場合があります。

アドヒアランスを高め、薬剤の効果を最大限に生かすには、症状発現時の対策や日常生活上の注意点などの情報提供だけでなく、心理面や社会生活面についての支援も必要です。また、医療を行ううえで最も重要な、医療者と患者さんとの「共同意思決定」を実現するためにも、個々の患者さんのニーズを見極めながら正しい知識や情報を患者さんやご家族に提供し、信頼関係を築くことが不可欠です。

患者さんが理解できる言葉で説明を行うためには、医療者自身も十分な知識や技術を習得しなければなりません。また医学的な視点とともに、病いを抱えながら日々の暮らしを送る“生活者”としての患者さんの視点を併せもちながら、環境の調整も含めた多職種協働での支援を継続的に行う必要があります。さらに看護師は、患者さんに最も身近な存在として患者さんと医療者、さらには医療者同士を繋ぐ、という重要な役割も担っています。

本書は、リウマチ診療に必須の基本知識、生活者としての患者さんへのケアに必要な情報を、医療者と患者さんの視点を含めながら多職種協働で作成いたしました。

リウマチ患者さんがどこにいても自分らしいより良い人生を送っていただけるような環境を整えるうえで、本書が少しでもお役に立てればと願ってやみません。

2019年7月

房間美恵，竹内 勤